

マスコミ各位

平成30年12月19日（水）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、仁平

電 話：098-866-2215

風しん患者の発生状況について(県第七報)

1 報道関係者の方へ

平成30年、県内では1月1日から12月11日までに風しん疑い症例71名について遺伝子検査を実施し、8名の風しん患者（医療機関の検査で確認された1名を含む）を、また医療機関の検査により2名の患者を確認しています。今回、12月12日から18日までに疑い症例6名の遺伝子検査を実施し、1名の患者を確認しましたので、合計の患者数は11名となりました。患者情報の詳細は、「2患者情報」のとおりです。

風しんは症状が分かりづらく、県内には潜在的な感染者が存在する可能性があります。また、全国的にも風しん患者の発生が拡大しています。今後の感染拡大防止のため、以下の点について、県民への注意喚起を宜しくお願い致します。

なお当面の間、県内で新たに風しん患者が報告された場合は、週に1回、国立感染症研究所の風疹急増に関する緊急情報が更新された翌日を目安に、プレスリリースを行う予定です。

- 風しんに感染しないためには、予防接種が重要です。風しんの定期予防接種対象（第1期：1歳になってから2歳になるまで、第2期：小学校に入学する前の1年間）の方は、早めに予防接種（MR ワクチン）を受けましょう。
- 妊婦は予防接種が受けられません。風しんに対する免疫が不十分、あるいは不明な妊娠初期の方は、なるべく人混みを避け、風しん流行地への訪問予定のある方は延期をご検討ください。
- 妊娠を希望される方や妊婦の同居者（夫、子どもなど）で、ワクチン接種歴が1回以下の方は、かかりつけ医に相談し、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。
- 30代から50代の男性は、風しんの免疫が不十分な世代と言われています。この世代の方は、抗体検査や予防接種について積極的にご検討ください。
- 発熱や発疹等から風しんが疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。また受診の際はマスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

○ 年末年始はイベントや県外や国外への帰省、旅行の機会が多くなるため、感染症が拡大する可能性があります。常日頃の手洗い、咳エチケットに加え、体調が悪い時は外出を控える、旅行の際は風しんに限らず現地の感染症情報を調べ、対策をとること等が必要です。

2 患者情報

患者 No.	年齢	性別	居住地	予防接種歴	発熱日	発疹出現日	検査確認日	推定感染源	備考
1	40代	男性	那覇市	不明	10/3	10/4	10/7	不明	
2	40代	女性	宜野湾市	不明	10/2	10/3	10/9	県内	
3	20代	女性	那覇市	無	10/8	10/7	10/12	県内	
4	40代	男性	那覇市	不明	無	10/8	10/12	県内	医療機関の検査で確認
5	50代	男性	沖縄市	不明	10/21	10/21	10/23	県内	
6	20代	男性	沖縄市	有 (2回)	10/14	10/7	10/25	県内	医療機関の検査で確認
7	40代	男性	那覇市	無	10/24	10/24	10/26	県内	
8	40代	男性	南部管内	不明	10/30	11/3	11/7	不明	
9	40代	男性	中部管内	不明	無	11/20	11/24	県内	検査確認日は医療機関における検査確認日
10	30代	女性	中部管内	不明	11/21	11/20	11/26	県内	
11	20代	女性	中部管内	不明	12/11	12/13	12/14	不明	

感染症法の趣旨に則り、患者やその家族・関係者について、本人等が特定されないことがないように、格段のご配慮をお願いします。

なお、全国の風しん患者数は、平成30年第1～49週までに2,586名の患者が報告され、第48週までの累積報告数から132名増加しています。首都圏での報告数増加が継続する一方で、首都圏以外の地域からの報告も増加しています。

3 予防接種関連情報

平成30年11月13日時点での県内卸業者における、MRワクチンの在庫は、約2,900本が確認されています。

県内の予防接種実施医療機関については、沖縄県医師会ホームページ及び地域保健課ホームページ「風しん関連情報（2018年）」等をご参照ください。また、予防接種を希望される場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、MRワクチンの接種が可能か確認の上、予約をし、受診をお願いします。

4 医療関係者の皆様へのお願い

医療関係者におかれましても予防接種歴の確認をしていただき、未接種者はワクチン接種を検討してください。加えて、院内での感染防止対策の徹底を宜しく願います。

また、風しんを疑った、もしくは診断した際には、管轄保健所へ報告を行うとともに、接触者の確認や、感染拡大防止の対応をお願い致します。

5 風しんについて

原 因：風しんウイルス

潜伏期間：14～21 日（平均 16～18 日）

周囲への感染可能期間：発疹が出る 7 日前から 7 日後まで

主な症状：潜伏期間の経過後、発熱、発疹、リンパ節腫脹（ことに耳介後部、後頭部、頸部）が出現するが、発熱は風しん患者の約半数にみられる程度。また症状の現れない不顕性感染が、15～30%程度存在する。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊婦が妊娠初期(約 20 週まで)に感染すると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風疹症候群」になり、目や耳、心臓に障害を持つ可能性がある。

感染経路：飛沫感染、接触感染

感染症法：五類感染症

予 防：予防接種が有効

6 参考

地域保健課ホームページ：風しん関連情報（2018 年）

https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiiki_hoken/kekkaku/huusin2018.html

国立感染症研究所ホームページ：風疹急増に関する緊急情報(2018 年)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>

厚生労働省ホームページ：風しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-ka-nsenshou/rubella/